

小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2026年4月から6月
2. 調査対象：小樽市内の企業254社
3. 内 訳：製造業54、卸売業25、小売業40、運輸・倉庫業20、観光業44
サービス業39、建設業32
4. 回答企業数：142社（55.9%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

概 況

一 売上DIは2期ぶりのプラス水準であったが、業況DIは2期ぶり、採算DIは5期連続のマイナス水準に—
前年同期（2025年4月～6月）と比べた今期（2026年4月～6月）の状況
今期と比べた来期（2026年7月～9月）の予想

全業種における企業の景況感を示す業況判断DIは▲0.4で、前年同期比で5.4ポイント低下しました。主要3項目のうち、売上DIは2期ぶりのプラス水準となりましたが、業況DIは2期ぶり、採算DIは5期連続のマイナス水準となりました。来期の業況DIは4.8ポイント低下しマイナス水準、売上DIはプラス水準、採算DIはマイナス水準になると予想されています。また、中東情勢の影響で先行きに対する不透明感を示すコメントが目立ちました。

製造業では、売上DIが前年同期比22.2ポイント上昇の22.2、採算DIは同11.5ポイント上昇の▲11.1、業況DIは同9.7ポイント上昇の0となりました。

卸売業では、売上DIが同13.4ポイント上昇の0、採算DIは同6.6ポイント上昇の0となりました。業況DIは同12.3ポイント低下の▲5.6となり、マイナスに転じました。

小売業では、売上DIが同14.3ポイント上昇の14.3、採算DIは同8.5ポイント上昇の▲23.1、業況DIは同8.6ポイント上昇の▲7.2となりました。

運輸・倉庫業では、売上DIが同6.3ポイント低下の21.0、採算DIは同57.3ポイント低下の▲30.7、業況DIは同26.6ポイント低下の0となりました。採算DIは50ポイント以上の低下でマイナスに転じました。

観光業では、売上DIが同10.4ポイント低下の13.8、採算DIは前年同期と変化なしの▲3.5、業況DIは同6.9ポイント低下の▲3.4となりました。業況DIはマイナスに転じました。

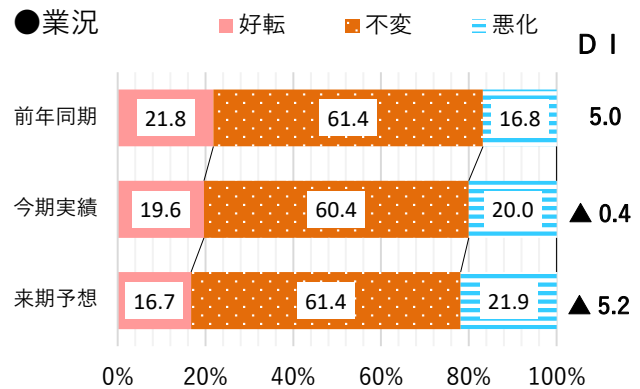
サービス業では、売上DIは同28.0ポイント低下の20.0、採算DIは同41.3ポイント低下の▲13.3、業況DIは同24.0ポイント低下の0となりました。採算DIは40ポイント以上の低下でマイナスに転じました。

建設業では、売上DIが同3.6ポイント上昇の9.1、採算DIは同24.8ポイント上昇の13.7、業況DIは同13.6ポイント上昇の13.6となりました。採算DIはプラスに転じました。

業況、売上、採算

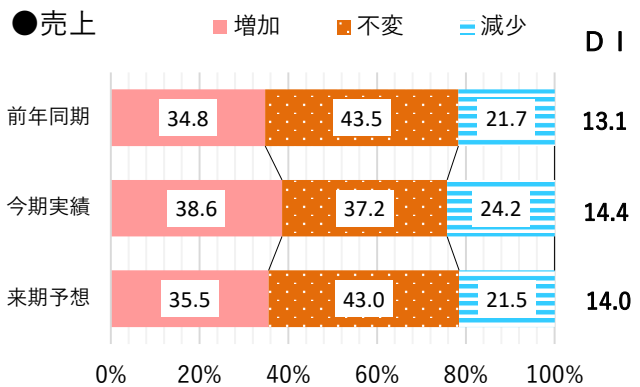
今期（2026.4～6）の業況DIは▲0.4で、前年同期（2025.4～6）と比べ5.4ポイント低下しました。

来期（2026.7～9）の業況DIは▲5.2で、今期（2026.4～6）と比べ4.8ポイント低下すると予想しています。



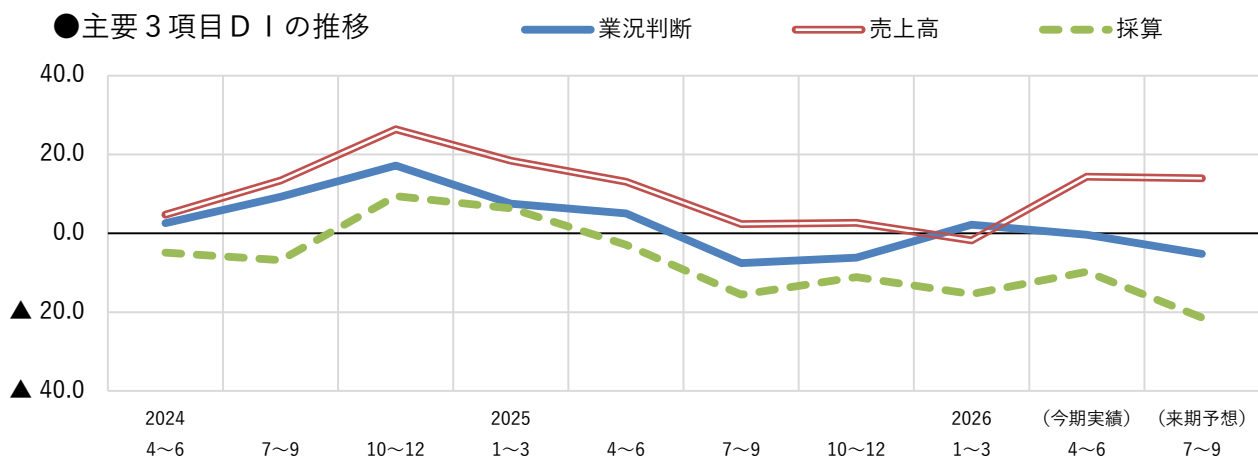
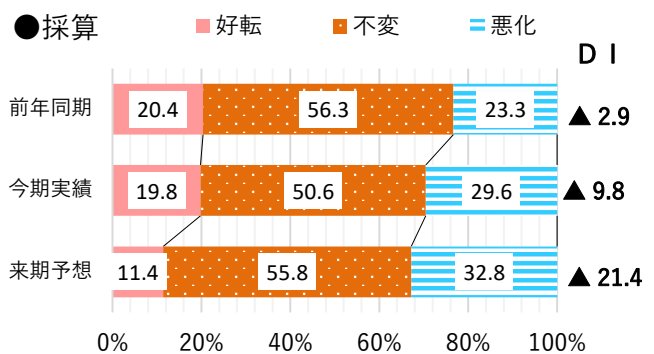
今期の売上DIは14.4で、前年同期と比べ1.3ポイント上昇しました。

来期の売上DIは14.0で、今期と比べ0.4ポイント低下すると予想しています。



今期の採算DIは▲9.8で、前年同期と比べ6.9ポイント低下しました。

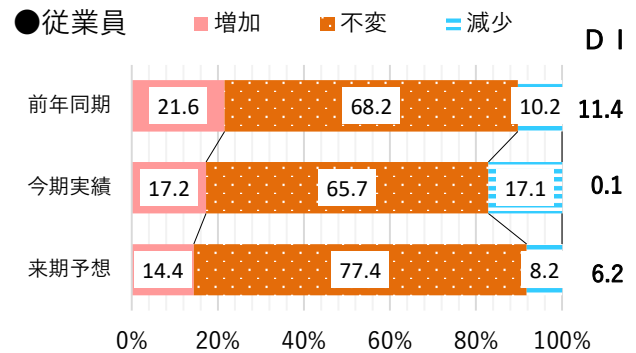
来期の採算DIは▲21.4で、今期と比べ11.6ポイント低下すると予想しています。



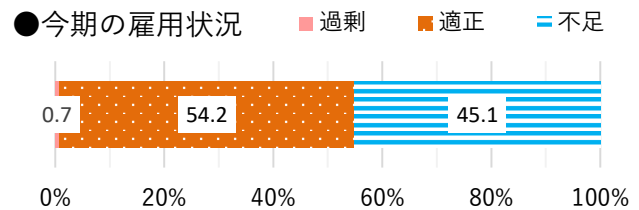
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.1で、前年同期と比べ11.3ポイント低下しました。

来期の従業員DIは6.2で、今期と比べ6.1ポイント上昇すると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業は0.7%、適正であると回答した企業の割合は54.2%、不足していると回答した企業の割合は45.1%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、「従業員数は前年同期比で変わらず、適正である」という回答で、40.8%を占めました。

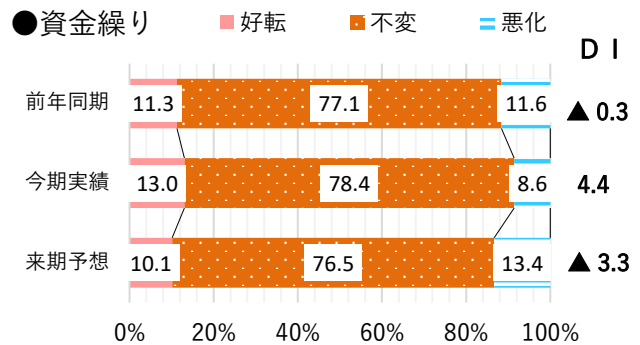
今期従業員数	今期の雇用状況	回答割合
増加した	過剰	0%
	適正	10.6%
	不足	6.3%
不変だった	過剰	0.7%
	適正	40.8%
	不足	24.6%
減少した	過剰	0%
	適正	2.8%
	不足	14.1%

※回答総数142社

資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは4.4で、前年同期と比べ4.7ポイント上昇しました。

来期の資金繰りDIは▲3.3で、今期と比べ7.7ポイント低下すると予想しています。



今期の設備投資は37.6%が実施と回答し、前年同期と比べ5.8%低下しました。投資内容は、1位が「車両・輸送機材」、2位が「付帯施設」「OA機器」（同位）でした。

来期は35.5%が設備投資を計画していると回答しています。

